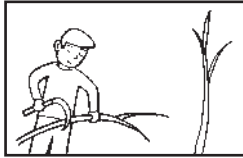


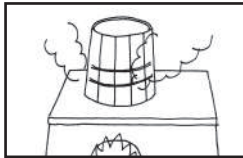
手すき和紙の作り方

1 原料づくり



刈りとり

原料になる楮を落葉の後、年1回(12月初旬~1月中旬)刈りとります。



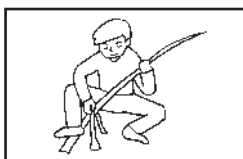
蒸し

刈り取った楮の木を蒸し、皮をはぎやすくなります。



皮剥ぎ

蒸しが終わったとき、皮をはぎます。



表皮取り

外皮(黒皮)をけずりとり、乾燥させます。(白皮となる)

2 紙づくり



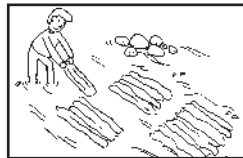
水浸け

川の浅瀬か水槽に2日間(冬は3日間)浸し、不純物を除いて原料を柔らかくします。



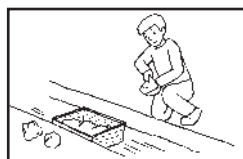
煮熟

原料を釜の中に入れ、煮熟剤(アルカリ性薬品)を加えて、繊維だけを取り出します。



灰汁ぬき・漂白

流水にひたし、灰汁をぬくとともに、自然漂白をおこないます。



ちり取り



叩解

繊維を木槌で叩き、細かくほぐします。叩解が終わった原料ハ紙料箱に入れます。

3 紙すき



たてる

紙を漉きまでの作業を「紙をたてる」といいます。漉船の中に、原料、黄芩菜、水を入れて準備をします。「1たて」で25枚ほどの紙を漉き、1日に8回ほど行います。

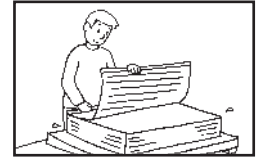
漉き

次に簀笥という道具を使って漉船の中の液(紙料)をすくい、揺すりします。これを「紙を漉く」といいます。その作業は次のア、イ、ウの順序で行われます。

ア 化粧水・・・紙の表面をつくります。この時、チリなどを入念に取りのぞきます。

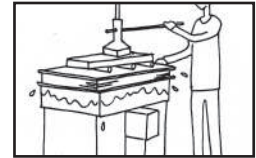
イ 調子・・・紙の厚みをつくります。他の産地では「縦揺り」が主ですが、美濃和紙は「縦ゆり」とともに「横揺り」を行います。「とも揺り」といって1回のくみあげで前後左右に揺ることもあります。

ウ 払い水・・・紙の裏面をつくります。紙料を浅くみ、1回で完全に払い捨てます。このように紙は積層されて1枚となります。



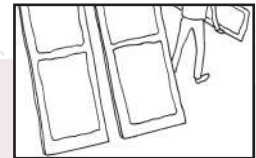
紙床をつくる

漉きあげた湿紙を紙床板に1枚ずつ積み重ねます。積み重ねた紙を「紙床」といいます。

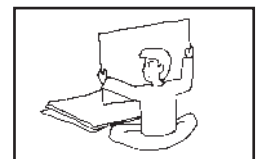


脱水

紙床の圧搾といひ、紙の水分をしぼる作業をします。圧搾した後、紙の水分は60~65%となります。



乾燥



仕上げ

乾かした紙を1枚1枚手にとって選別し、その後仕立てをします。たて方法は百枚を三つに折り、ご五百枚で包みます。巻千枚を「一丸(ひとまる)」といいました。